

シラバス作成のためのガイドライン

2023年12月
東洋大学

授業担当者の皆様へ

日頃、授業の運営に関しまして、多大なご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在の高等教育では、教育の質的転換に向けて、教育課程の授業科目を体系的に編成することや、事前・事後を含め学修の質と量とともに拡充させることが求められております。そのためのツールのひとつであるシラバスは、学生を学びの旅へいざなう“ガイド”や“しおり”に当たるものです。事前（履修選択時）に確認するための全体計画を示すだけでなく、学生が常に携行して、自分がいま全体の旅程のどこにいるか、これからの予定はどうなっているか、次に訪れる場所のためにどのような準備が必要か、などを途中で確認できるものにしておくことが必要です。したがって、授業の概要だけでなく、目的、到達目標、各回の授業内容、事前・事後学修の指示、成績評価方法と基準等を含み、学生が履修登録の際に参考にするだけでなく、よりよい学修成果をあげるために授業準備等で活用できるものとなっていなければなりません。

本学は14学部を擁する総合大学であり、学部では年間12,000以上の授業が実施されます。様々な学問分野や教育目標があるなかで、大学全体として理念にかなう教育の質の向上を考え、そのような教育を実質化していかなければなりません。そのための方策のひとつとして、シラバスを起点とする授業設計の枠組みをある程度まで一般化することが重要であることは、授業担当者各位におかれましても、学部や学科などの組織、ひいては大学全体においても認識を共有していただければと思います。

また、シラバスに記載する情報は、大学設置基準により学生に示すことが求められているとともに、学校教育法施行規則により公表することが義務付けられております。したがって、シラバスは、学生にとって分かりやすいものであるだけでなく、外部からの評価に堪えうるものでなければなりません。

これらのことを踏まえまして、次年度のシラバスをご作成いただくにあたり、必須項目やその記載方法といった基本的要件に関するものから、授業の質を高めるうえで役立つ観点までも含めたガイドラインを用意いたしました。必ずご一読くださいますようお願いいたします。

東洋大学教務部長

目次

1. シラバスに記載する項目	4
(1) 英文シラバスの入力画面 (ToyoNet-G)	9
(2) 対面単位認定科目と非対面単位認定科目	9
(3) 教職関係科目において留意する事項	9
2. 教員プロフィールに記載する項目	10
3. シラバスの点検	11
(1) 【第一段階】セルフチェックのお願い	11
(2) 【第二段階】スクリーニングチェックの実施	11
(3) 【第三段階】第三者(専任教員)チェックの実施	11
4. (参考) シラバスの作成例	12
(1) 日本語版シラバスの作成例	12
(2) 英語版シラバスの作成例	17
(3) 非対面授業のシラバスの作成例	21
(4) サンプルシラバス	23

[昨年度との変更点]

- ・表等の記載方法の見直し、参考資料を別紙とする等、ガイドラインをスリム化しました。
※ご案内内容は昨年度と同様です。
- ・サンプルシラバスを追加しました。

1. シラバスに記載する項目

各授業科目は、学部・学科等の教育研究上の目的を実現するために、教育課程の編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に則り、教育課程に配置されています。学生は、系統的、順次的な学修により、卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が掲げる資質・能力を身につけることが期待されており、その学修過程を明示するために、本学では全学科でカリキュラムマップ及び科目ナンバリングを導入しています。

シラバス作成にあたっては、当該科目の教育課程における位置づけ（卒業の認定・学位授与に関する方針との関係）、また、他の科目との関連性等を確認したうえで、その科目に求められている目的、内容、難易度等を勘案し、適切な学修到達目標を設定してください。

※カリキュラムマップは、東洋大学ウェブサイトの各学科のページ等に掲載しております。

（カリキュラムマップの例：経済学部総合政策学科の例）

<https://drive.google.com/file/d/18MLwltBlugWQUzLoj0ufqhnAXE2og2ko/view>

※科目ナンバリングは、シラバス入力フォーム等でご確認いただけます。

（科目ナンバリングの体系）



…100 番台（大学1年次レベル）／200 番台（大学2年次レベル）／300 番台（大学3年次レベル）／400 番台（大学4年次レベル）／500 番台（大学院入門レベル）

①講義の目的・内容（必須）

- 教育課程（カリキュラムマップ）における位置づけに照らして当該科目の履修意義が明確になるような内容の授業で学生は何を学ぶことができるかを、概括的にわかりやすく示してください。
- 卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が掲げる資質・能力と、当該科目との関連も示してください。
- 卒業後の進路等において求められる実務上の能力の伸長に資する内容を含む場合は、明示的にその内容に言及してください。その場合、どのような教員による、どのような実務経験を生かした授業内容となるかを併せて示すことが望ましいです。

②学修到達目標（必須）

- 修得を目指す知識、技能、態度、表現等を具体的に示してください。
- 卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）やカリキュラムマップにおける位置づけを踏まえ、適切な目標（どのような能力を、どの程度まで身につけるか）を設定してください。
- 観察・測定・評価が可能な目標を設定してください。

③講義スケジュール（必須）

- 各授業回の違いがわかるように、授業内容を示してください。複数回に渡り同じテーマが続く場合は、その詳細を記述してください。
- 「試験」だけの授業は原則として認められません。授業内試験を行う場合でも解説等を含めて、単位制度の趣旨に即した実質的な授業内容を確保してください。
[参考] ○→試験（60分）+評価・まとめ（30分）
×→試験（90分）
- 各回の授業内容は、見出し相当の記載のみだけでなく、具体的な概要、キーワード等を含むことが望ましいです。
- 対面単位認定科目において、あらかじめ非対面の授業回を設ける場合は、そのことが分かるように記載をしてください。また、その場合の授業の形式（同時双方向型授業（テレビ会議方式による授業）・オンデマンド型授業（授業教材配信方式による授業）の別）も記載願います。

④指導方法（必須）

- 主体的な学修を促す観点から、授業の進め方の特徴など、授業を受ける学生が心得ておくべきことを記載してください。
- 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法（解説を行う、コメントを付して返却する、等）を記載してください。
- 学生の主体的な学修を促す工夫を組み込んでいることが望ましいです（PBL、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク等）。

【非対面単位認定科目の記載事項】

- 授業の形式についての説明を加筆してください。
 - ①授業の形式（同時双方向型授業（テレビ会議方式による授業）・オンデマンド型授業（授業教材配信方式による授業）の別）が分かるようにしてください。
 - ②「使用するアプリケーションプログラムやファイル形式など」を記載してください。
 - ③質疑応答または意見交換の手段や方法を具体的に記入してください。
- オンデマンド型授業（授業教材配信方式による授業）の場合であっても、質疑応答や意見交換の機会の確保、提出された課題に対する毎回の指導（一定のタイムラグがあっても可。指導の一事例としては、採点やコメントなどによる評価結果のフィードバックなどがある）が必要になりますので、この手段を具体的に記載してください。
- 非対面授業の運用方法については、別紙『**非対面授業（メディア授業）の実施ガイドライン**』、『**非対面単位認定科目の教育課程及び授業運営上の取り扱いの考え方について**』、『**オンデマンド型授業の実施方法等に関するガイドライン**』を参考にしてください。

⑤事前・事後学修（必須）

- 単位制度の趣旨に則り、事前・事後学修の具体的な方法や内容、目安の時間数を明示してください。
- 合計時間だけでなく、時間の使い方を示すことが望ましいです。
- 授業時間外の学修を多く要する講義、演習は、各回の授業について、事前の準備や事後の振り返り、発展学修を促すことが望ましいです。

⑥成績評価の方法・基準（必須）

- 学修到達目標と対応させ、求められる学修成果を学生が意識して授業に取り組めるように、評価方法を示してください。
- 複数の方法がある場合は、それぞれの配分割合を示してください。
- 評価方法は時期、形式等を具体的に示すことが望ましいです。
- 成績評価の基準を明記してください。例）東洋大学の成績評価基準に準拠します。

〔東洋大学成績評価基準（参考）〕

合否	成績表示	評価点の範囲	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・サポート提出等の評価要件を欠格。

※上表の「到達目標」とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指します。

※「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良（3分の2以上の出席をしていない）、またはレポートの未提出、試験の不受験のために成績評価の判断ができないものを指します。

※上表のほか留学や他大学での学修成果等を単位認定する場合、「T（Transfer の略）」を合格の評価として使用します。

- 学修到達目標の達成度がどのような観点と水準により評価されるかを示すことが望ましく、その観点と水準は、学生自身が目安として使えるように、ループリック等の方法で示すことが望ましいです。

【非対面単位認定科目の記載事項】

- 非対面単位認定科目ならではの特別な評価を行う場合は、それを具体的に記入してください。なお、通常の対面単位認定科目では、3分の2以上の出席を単位認定の前提として求めています。インターネットによる授業へのアクセスやレポート課題の提出などをもって出席とみなしてください。

⑦受講要件（必須）

- 履修の前提となる条件、授業科目等を示してください。ただし、受講対象者を極端に制限するような記述は避けてください。

⑧テキスト・参考書（必須）

- テキストは授業で使用する教材・配布物等を記載してください。
- 参考書として、事前・事後学修で学生が主体的に学ぶために役立つ資料（文献、ウェブサイト等）を記載することが望ましいです。
- 入手・アクセスに必要な情報を併せて示してください（書名／URL、著者、出版社、出版年）。定価があるものは価格も示してください。

⑨関連分野・関連科目（任意）

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に則った学修を促すため、教育課程における当該科目の位置づけを理解するのに役立つ情報を示すことができます。

⑩備考（任意）

- ①～④以外に、学生が理解しておくべき情報等を記載することができます。
- 「卒業研究」、「卒業論文」、「研究指導」、「基礎演習」、「演習」等の科目において、授業に関連して休暇等を利用して海外の研修等に参加する場合は、以下の記述を備考欄に含めてください。
【例】「学習または研究を深めるために、必要に応じて、国内外における調査や学会への参加・発表を指導します。」
【例】「当ゼミでは、学習または卒論研究を深めるために、国内外での調査や研修を指導します。」
- 学生がシラバスの内容を十分に理解したうえで学修を進められるように、シラバスの記載内容に基づく課題を設定し、第1回授業で取り組ませることを検討してください。
- 本学におけるSDGs推進への貢献を図るための一助として、また、本学学生がSDGsへの理解を深めより身近な問題として捉えられるようになることを目的として、授業内容と持続可能な17のゴールが関連している場合は、SDGsの項目番号および目標を可能な範囲で【備考】欄に追記してください。
なお、英文シラバスにこの一文をあえて追加する必要はありません。
【例】「本授業科目は、「SDG5. ジェンダー平等を実現しよう」に関連する授業科目です。」

[持続可能な17のゴール]

SDG1. 貧困をなくそう／SDG2. 飢餓をゼロ／SDG3. すべての人に健康と福祉を／SDG4. 質の高い教育をみんなに／SDG5. ジェンダー平等を実現しよう／SDG6. 安全な水とトイレを世界中に／SDG7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに／SDG8. 働きがいも経済成長も／SDG9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／SDG10. 人や国の不平等をなくそう／SDG11. 住み続けられるまちづくりを／SDG12. つくる責任 つかう責任／SDG13. 気候変動に具体的な対策を／SDG14. 海の豊かさを守ろう／SDG15. 陸の豊かさも守ろう／SDG16. 平和と公正をすべての人に／SDG17. パートナースhipで目標を達成しよう

①添付ファイル（任意）

○成績評価に用いるルーブリック、その他の授業に関連する資料等、備考欄に収まらない情報を PDF 等のファイルで示すことができます。

②リンク（任意）

○授業に関連するウェブサイトを示すことができます。

[シラバス点検のポイント]

	発展レベル	標準レベル
評価項目	<p>【内容に係る評価を伴うもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎教育の質的転換が意識されているか ◎教育の質保証が意識されているか ○学生にわかりやすく書かれているか。 <p>【チェックのつく項目が多いほど望ましい】</p>	<p>【形式的に確認可能なもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎シラバスに求められる項目が網羅されているか ◎各項目に求められる要素が含まれているか <p>【全項目にチェックがつくことが求められる】</p>
【重点項目】 講義の目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> □教育課程(カリキュラムマップ)における位置づけに照らして、当該授業を履修する意義が明確である。 ○どのような能力を身につけるための、どのような段階の学修であるかが明確に述べられている。 □卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質・能力等との関連を説明している。 (教職などの資格関係科目) □目的・内容が、法令等が求める質的水準を満たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> □学生を主体として目的を記述している。 ×「この授業では……について解説します。」 ○「この授業では、……について理解を深め、……ができるようになることを目指します。」 <p>(教職などの資格関係科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> □法令等が求める目的・内容との対応を示している。
【重点項目】 学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> □観察・測定・評価可能な目標になっている。 □卒業認定・学位授与の方針やカリキュラムマップにおける位置付けに即して、目標が設定されている。 ○連関する科目と比較して難易度の設定が整合している。 ○何が、どの程度まで、できるようになるかが明確に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> □学生を主体として目標を記述している。 □能力(知識、技能、態度、表現等)を具体的に示している。
講義 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> □各回の授業内容を具体的に記述している。 △「言語獲得」(見出し相当の記載のみ) ○「5歳ぐらいまでの子どものことばの発達過程を観察しながら、言語がどのように獲得されていくかを考えます」 	<ul style="list-style-type: none"> □各回の授業内容を区別して記述している。 ×番号のみで区別される記述が繰り返されている(報告①、報告②、など)。 ○複数回にわたり同様のテーマを取り扱う場合は、副題やキーワードを付けて各回の内容を区別している。 ○演習、実習、実験において複数回にわたって同一内容の授業を行う場合は、その詳細(毎回の授業でどのような内容のことをどのように行うか)を記述している。 □単位制度の趣旨に即した授業内容の実質が確保されている。 ×「試験」だけの回がある。 ○「試験」を行う場合は併せて解説・講評・まとめなどの要素を含めている。

評価項目	発展レベル	標準レベル
【重点項目】 指導方法	<input type="checkbox"/> 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（解説、コメント等）を行っている。 <input type="checkbox"/> 学生の主体的な学修を促す工夫を組み込んでいる（PBL、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク）。 ※教員主体の書き方（「反転授業の要素を取り入れます」など）ではなく、学生が授業を受けるに当たって心得ておくべきことを示すことが重要。 <input type="checkbox"/> 「この授業は、テーマを設定し、グループに分かれてテーマに関する課題を議論し、解決・改善の方策を提案するかたちで進めます。課題は、……」	<input type="checkbox"/> 授業の進め方について記述している。 ×「授業は講義形式で行います。」（形態のみ記載） <input type="checkbox"/> 「この授業は講義形式で行います。最初の10分程度でリフレクションをもとに前回の授業の振り返りを行います。その後、……」 <input type="checkbox"/> （非対面授業を行う場合のみ） 非対面授業を行う場合は、その実施方法等について記述している。
【重点項目】 事前・事後学修	<input type="checkbox"/> 単位制度の趣旨に即して、事前・事後学修にかかる時間の使い方の目安を示している。 <input type="checkbox"/> 「授業前にToyoNet-ACEのコースコンテンツから資料を入手し、目を通してください【1時間】。そのうえで、ToyoNet-ACEの小テスト（ワークシート）に取り組んでください【30分】。授業後は、資料を見て授業内容を振り返ってください【30分】。そして、発展学修として授業スケジュールに示した文献を読んでください【2時間】。なお、興味を持ったことについては、積極的に関連文献を図書館等で確認してください。」 <input type="checkbox"/> 事前・事後学修を促す工夫がある。 <input type="checkbox"/> 教科書・参考書・URL等が記載されている。 <input type="checkbox"/> 各回の授業について、事前の授業準備、事後の振り返りや発展学修のために、考察したり取り組んだりすべきことが記載されている。	<input type="checkbox"/> 事前・事後学修の方法や内容等を具体的に指示している。 <input type="checkbox"/> 単位制度の趣旨に即して、事前・事後学修にかかる時間の目安を示している。 ×必ず予習、復習をしてください。 <input type="checkbox"/> 授業の前にToyoNet-ACEのコースコンテンツから配付資料を入手し、これに目を通したうえで、ToyoNet-ACEの小テスト（ワークシート）に取り組んでおいてください【2時間】。授業の後は、毎回の授業計画に記載されている文献を読んでおいてください【2時間】。
【重点項目】 成績評価の方法・基準	<input type="checkbox"/> 成績評価の各方法（試験・レポート・その他の方法）の時期や形式について具体的に示している。 <input type="checkbox"/> 成績評価の基準となる観点と達成度（何ほどの程度までできることが求められているか）をルーブリック等で示して、学生自身による測定も可能としている。	<input type="checkbox"/> 学修到達目標に対応している。 <input type="checkbox"/> 成績評価方法（試験・レポート・その他）を具体的に示している。複数の方法がある場合は、配分割合（試験〇％、レポート〇％）も示している。 <input type="checkbox"/> 成績評価基準を示している。 <input type="checkbox"/> 「東洋大学の成績評価基準に準拠します。」 <input type="checkbox"/> 「60点以上を合格として、次の基準で評価します。[S]:90点以上、……」
受講要件	-	<input type="checkbox"/> （授業要件がある場合は）具体的に科目等を記載している。 ×やる気のあるひとだけ履修してください。 <input type="checkbox"/> 「〇〇」を履修していることが前提となります。 <input type="checkbox"/> 前提となる科目以外に、明らかに受講者を限定する条件は設定していない。
テキスト・参考書	<input type="checkbox"/> 主体的に知識を深めるための参考書等を示している（文献、ウェブサイト等）。	<input type="checkbox"/> テキストまたはテキストに相当する教材を指定している。 ×テキストは使いません。 <input type="checkbox"/> 事前に配付する資料を使います。 <input type="checkbox"/> 入手・アクセスに必要な情報を示している（書名/URL、著者、出版社、出版年）。 ※定価があるものについては価格も示す。

(1) 英文シラバスの入力画面 (ToyoNet-G)

基本的に左側に「和文シラバス」、右側に「英文シラバス」を入力いただけるようになっております。ただし、英語を使用言語とする授業科目は、「英文シラバス」欄のみが表示されますので、この場合「和文シラバス」欄の入力は不要です。また、2024年度シラバスの英語化については、別紙『2024年度以降のシラバスの英語化方法について』をご確認ください。

シラバス公開言語 Syllabus Content language サブタイトル (100文字以内) ※行頭の下下げは全角スペースで入力してください。	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> English Sub-title *(Within 100 characters) *Indent using two-byte space.
普遍性と多様性を学ぶ	Universality and Diversity of Language, Culture and Communication
講義の目的・内容 ※必須※ (1000文字以内) ※行頭の下下げは全角スペースで入力してください。	Course Purpose and Description *Required*(Within 1000 characters) *Indent using two-byte space.
言語には、ひとびとをつなぐはたらきと、これと相対するよりに人々をわけるはたらきがあります。世界共通語として英語を学ぶのは、英語が異なる人々と交流するために役立つと考えられています。この考えの前提となるのは言語の「つながりはたらき」です。一方で、わたしたちは言語を専ら「つなぐ」だけでなく、個人や集団、状況や立場、時代や地域などの特徴を認めます。これが可能なのは言語に「わけるはたらき」があるためです。この講義では、言語のふたつのはたらきと、それらがもたらす文化のさまざまなかたちについて学びます。この学びが国際社会においてコミュニケーションを回すための意義となり、それが法学部のディプロマポリシーに掲げられているグローバル化社会への対応につながることを目指します。	This course focuses on the universality and diversity of language, culture and communication. Through this course students will learn about various aspects of language and its uses. Knowledge about language, culture and communication will help students when interacting with people from a variety of backgrounds in the context of a globalized, international society.
学修到達目標 ※必須※ (600文字以内) ※行頭の下下げは全角スペースで入力してください。	Learning Objectives *Required*(Within 600 characters) *Indent using two-byte space.

日本語（または英語以外の言語）で行う授業については、本学の教育の国際通用性を高めるため、科目概要等を和文と併せて英文のシラバスを作成いただくこととなっておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、この英文シラバスの主たる目的は、本学の教育情報の開示であり、当該年度の履修登録や毎回の授業受講にあたって履修者に情報を提供することではないため、年度ごとに更新される情報（日程等）を含める必要はありません。

※原則として、シラバス入力画面には前年度シラバス（2023年秋学期授業開始時点のもの）があらかじめ複製されています（和文・英文の両方。ただし、学部・研究科等によって異なる）。

(2) 対面単位認定科目と非対面単位認定科目

各授業科目は、対面単位認定科目または非対面単位認定科目のどちらかになります（大学院を除く）。

「対面単位認定科目」…対面で行う授業回を全授業回数の半分（15回中7回）を超えて実施する科目

「非対面単位認定科目」…「対面単位認定科目」以外の科目

単位認定ができる正課上の科目とするためには、「文科省告示に示された要件を満たす方法」に加えて、本学における運用に適合したものにする必要があります。詳細は、別紙『非対面授業（メディア授業）の実施ガイドライン』、『非対面単位認定科目の教育課程及び授業運営上の取り扱いの考え方について』、『オンデマンド型授業の実施方法等に関するガイドライン』を参照してください

「非対面単位認定科目」の授業運営は、以下のとおりとなります。

授業形態	開講曜日時限の設定	教室利用
同時双方向型	する	しない (教室を使った対面試験を選択することが可能)
オンデマンド型	原則、しない (試験を対面で行う場合は、する)	しない (教室を使った対面試験を選択することが可能)

※「オンデマンド型授業」については、次のことをお願いしています。

- ・学生の学修ペースの確保を図るため、教材提示・フィードバックは、できる限り週単位で実施していただくこと。
- ・90分授業に相当する学修の質や量の確保を図るため、授業教材の視聴や読解、授業中に行う課題や意見交換に要する時間が概ね90分相当になる分量としていただくこと。
- ・授業教材には、担当教員による音声や文字による解説を、教室等において行う授業に準じた内容で付加していただくこと。

(3) 教職関係科目において留意する事項

教育職員免許法施行規則に則って、課程認定を受ける際に提出した申請書類の内容と相違がないか、以下の科目については①～④にご留意のうえ、作成をお願いします。

【対象科目】

「領域及び保育内容の指導法に関する科目」

「教科及び教科の指導法に関する科目」

「教育の基礎的理解に関する科目」

「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

「教育実践に関する科目」等

- ①教育職員免許法施行規則第2条表、3条表、第4条表、第5条表、第7条表、第9条表及び第10条表の「右項の各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか。科目区分と授業内容が対応しているか（取得できる免許状と授業内容との関連は適切か）。
- ②一般的包括的な内容を含む授業科目として届けられている科目については、それがシラバスの授業計画から読み取れるようになっているか。
- ③次の科目のテキスト又は参考書について、認定を受けようとする学校種に対応した学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、生徒指導提要等を定めているか。
「保育内容の指導法」、「各教科の指導法」、「教育課程の意義及び編成の方法」、「道徳の理論及び指導法」、「総合的な学習の時間の指導法」、「特別活動の指導法」、「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」、「教育の方法及び技術」、「生徒指導の理論及び方法」
- ④教職課程コアカリキュラムに記載されている事項を修得するための必修、選択必修科目においては、既に提出したコアカリキュラム対応表との関連性に相違がないか。

2. 教員プロフィールに記載する項目

本学の学生・教職員のみを公開範囲として ToyoNet-G のシラバスから授業担当教員の「教員プロフィール」が確認できるようになっています。次の表に示す入力項目の記載をお願いします。

〔教員プロフィール入力項目〕

項目		在任		新任	
		専任教員	非常勤講師	専任教員	非常勤講師
所属学部／研究科		入力不要	入力不要	入力不要	入力不要
所属学科／専攻		入力不要	入力不要	入力不要	入力不要
職名		入力不要	入力不要	入力不要	入力不要
自宅	郵便番号	任意	任意	任意	任意
	住所	任意	任意	任意	任意
	電話番号	任意	任意	任意	任意
研究室	キャンパス	◎必須		入力不要	
	研究室	◎必須		入力不要	
	電話番号	◎必須		入力不要	
	オフィスアワー	◎必須		◎必須	
本務等			任意		任意
本務等電話番号			任意		任意
mail アドレス		原則入力	原則入力	入力不要	原則入力

項目	在任		新任	
	専任教員	非常勤講師	専任教員	非常勤講師
URL	任意	任意	任意	任意
専攻、専門分野、学位、所属学会等	任意	任意	任意	任意
著書、論文、研究テーマ等	任意	任意	任意	任意
自己紹介、学生へのメッセージ	任意	任意	任意	任意

※学生の質問や相談を受けられるようメールアドレス（大学が付与しているアドレス（@toyo.jp）も可）の入力をお願いいたします。

※本学の個人情報の取扱いについては、ウェブサイトの「個人情報保護基本方針」及び「個人情報保護規程」で公開しております。

※専任教員は、授業内容や学生生活全般（学修の進め方、履修全般、留学、就職や大学院進学などの進路、休学や退学など）に関する質問や相談を受けられるように、そして、関係部署（教務担当課、教職センター、ラーニングサポートセンター、ウェルネスセンター、就職・キャリア支援課等）と適宜連携して対応に当たることができるよう、必ずオフィスアワーの設定をお願いします。

3. シラバスの点検

2015年度シラバスでシラバス点検を導入して以降、シラバスの内容が充実されてきたことから、2021年度シラバスよりスクリーニングチェックを導入しています。今年度も引き続きスクリーニングチェックを実施いただき、シラバスの点検をお願いいたします。

(1) 【第一段階】セルフチェックのお願い

シラバスの作成が終わりましたら、点検チェックリストを参照して、記載内容の点検をお願いします。特に、「標準レベル」のすべての項目にチェックが入っていることをご確認ください。

(2) 【第二段階】スクリーニングチェックの実施

各教員によるセルフチェックの際に、次の2点について確認・記入をお願いいたします。なお、この2点に該当するシラバスについては、詳細な点検の必要性が高くないものとして、第三段階の「第三者（専任教員）チェックの実施」を省略することができます。

- ①「標準レベル点検項目」…前年度等にチェック済み・修正済みの内容と同程度以上の内容か否か
- ②「発展レベル点検項目」…学部・研究科等で定めた「一定項目数の充足の達成の有無」又は「達成すべき特定の項目の充足の有無」等の基準を満たす内容になっているか否か

①に該当しない場合は、「標準レベル」の第三者チェックをお願いいたします。

②を各学部等でどのような基準を設定したかについて、報告書に具体的な記載をお願いいたします。

(3) 【第三段階】第三者（専任教員）チェックの実施

スクリーニングチェックにより「詳細な点検が必要である」と判断されたシラバスについては、第三者によるチェックをお願いいたします。その際、「標準レベル」を満たしていない場合にはシラバスの修正をお願いすることになりますので、予めご了承ください。

4. (参考) シラバスの作成例

(1) 日本語版シラバスの作成例

言語と文化II	
担当者	●● ●●
<p>【サブタイトル】 (100字以内)</p> <p>学生が授業を概観できるようにわかりやすく表してください。</p>	<p>【講義の目的・内容】 ※入力必須項目 (1000字以内)</p> <p>授業内容とともに受講の意義が学生にわかるように具体的に記述することがポイントです。また、学生の視点から「教員がこの授業で何をするか」ではなく「学生が授業をとおして何を学ぶか」という記述にすることも重要です。</p>
<p>【サブタイトル】</p> <p>普遍性と多様性を学ぶ</p>	<p>【講義の目的・内容】</p> <p>言語には、人々をつなぐはたらきと、これと相反するように人々をわけはたらきがあります。世界共通語として英語を学ぶのは、母語が異なる人々と交流するのに役立つと考えられているためです。この考えの前提になるのは言語の「つなぐはたらき」です。その一方で、わたしたちは言語を手がかりにしてさまざまな個人や集団、状況や立場、時代や地域などの特徴を認めます。これが可能なのは、言語に「わけはたらき」があるためです。</p> <p>この講義では、「言語と文化I」で学んだことに加えてさらに広く、言語のふたつのはたらきと、それらがもたらす文化のさまざまなかたちについて学びます。この学びが国際社会においてコミュニケーションを図るための素養となり、それが法学部のディプロマ・ポリシーに掲げられているグローバル社会への対応につながることを目指します。</p>
<p>【学修到達目標】</p> <p>(1) 言語コミュニケーションの仕組みの概要を説明できる。 (2) 言語の普遍性・多様性の表象を的確に観察し分析的に記述できる。 (3) 言語と文化の普遍的な特徴、個別的な様相を示すことができる。 (4) 言語と文化の理解について、グローバル社会における重要性を述べるができる。</p>	<p>【学修到達目標】 ※入力必須項目 (600字以内)</p> <p>講義の目的・内容を前提として具体的に記載してください。また、学生の視点から、○○について「説明できる」「論理的に述べるができる」「類別できる」「指摘できる」「主体的に考えることができる」など、行動目標を中心として記載することがポイントです。</p>

授業の目標に使用する動詞の例

知識領域	列記(挙)する。述べる。推論する。記述する。説明する。分類する。比較する。対比する。類別する。弁(識)別する。関係づける。予測する。 具体的に述べる。結論する。同(特)定する。公式化する。一般化する。指摘する。選択する。使用する。応用する。適用する。など
技能領域	測定する。実施する。模倣する。熟練する。工夫する。触れる。行う。調べる。 操作する。挿入する。準備する。手術する。視診する。聴診する。触診する。 打診する。など
態度領域	協調する。配慮する。参加する。コミュニケーションする。討議する。尋ねる。示す。 見せる。助ける。感じる。行う。相談する。寄与する。反応する。応える。など

参考・引用 (日本医学教育学会 2006「医療プロフェッショナルワークショップガイド」)

【講義スケジュール】

【第1回】 授業案内／「言語と文化」の概要

【第2回】 言語コミュニケーションの特性

言語は人間に特有の能力であると言われています。人間の言語は、ほかの動物がコミュニケーションに用いる記号と何がどのように異なっているかを考えて、言語の特徴を学びます。

【第3回】 言語の獲得と使用（1）：母語の獲得

言語の仕組みは非常に複雑です。私たちにとってひとつの言語が話せるようになるのは大変なことです。子どもはどのようにしてわずか数年でことばを母語として話せるようになるのでしょうか。

【第4回】 言語の獲得と使用（2）：言語の種類

世界には数千の言語があります。しかし、諸言語をよく観察すると、意外なほど言語の特徴の種類は少ないのです。この授業では、諸言語のパターンを観察していきます。

【第5回】 言語の獲得と使用（3）：「生まれ」と「育ち」の議論

前回までの授業内容を踏まえて、言語は生まれながらに備わっている能力か、それとも生まれたあとに環境のなかで身についた能力かという議論について考えます。

【第6回】 言語の獲得と使用（4）：言語知識の構成／レポート（1）

私たちが意識することなく使っている言葉は、頭のなかでどのような知識として蓄積されているのか、また、どのような仕組みで多様なかたちをとって発せられるのか、について考えます。

【第7回】 音声の普遍性と多様性（1）：アクセントの諸相

言語はそれが使われるコミュニティが広がっていくと、異なる特徴（アクセント）を持つようになります。世界中で話されている英語について、どのようなアクセントがあるのかみていきます。

【第8回】 音声の普遍性と多様性（2）：英国英語のアクセント

英国で「標準」と考えられている英語の特徴をみたくうえで、それを英国の諸地域のアクセントと比較して、アクセントの種類を観察します。

【第9回】 音声の普遍性と多様性（3）：アクセントの変遷

ことばは時と共に変わっていきます。英国の英語の通時的変化を観察し、前回の授業で学んだアクセントが、どのような歴史的変遷によりもたらされたものであるかを学びます。

【第10回】 音声の普遍性と多様性（4）：社会的要因としてのアクセント／レポート（2）

アクセントの違いは地理的な要因だけでなく、社会的要因によってももたらされます。そのようなアクセントを題材とした舞台 Pygmalion を紹介しながら、英国の事例を学びます。

【第11回】 言語と思考（1）：意味の種類

同じことばでも異なる意味で使われる例をみながら、私たちが理解していることばの「意味」にはどのような種類があるか考えます。

【第12回】 言語と思考（2）：言語が表す世界

ある事象を表す語がふたつの言語の片方にしかないとき、その事象の理解は異なるのでしょうか。私たちの思考は、自分が話す言葉の意味にどの程度制約を受けるのかについて考えます。

【第13回】 言語と思考（3）：意味を理解する仕組み

前回までの授業を踏まえて、言語の意味の理解はどのような原理に基づいて行われるのかを考え、実例をみながらその原理がどのように働いているかを検証します。

【第14回】 言語と思考（4）：異文化間の意味の理解／レポート（3）

社会のグローバル化の進展に関して異文化間の意味の理解が問題になることがあります。ふたつの言語の間であることばが翻訳されたり外来語として取り入れられたりするときの文化的な影響について考えます。

【第15回】 総括／言語と文化の研究の展望／レポート（まとめ）

※各レポートの講評は ToyoNet-ACE で配信します。

【講義スケジュール】 ※入力必須項目（2000字以内）

全授業回数分（半期・クォーター科目は15回(8回)、通年科目は30回、集中授業科目等は全授業回数）の講義内容を明示してください。「試験」のみは、授業回数に含められません。

(○) 試験(60分) + 講評・まとめ(30分) (×) 試験(90分)

各回の違いを具体的に記載してください。複数回にわたって同様のテーマを扱う場合は、副題やキーワードをつけてください。また、事前・事後学修も各回で明示するとより学修効果が期待できます。

(○) ○○論(1) - △△の視点一 (×) ○○論(1)

【講義スケジュール】

【第1回】 授業案内／グループの編成と課題の選択

まず、シラバスに基づきこの科目について説明を行います。続いて、指導方法に記載した作業のために4～5名ずつのグループを編成します。各グループに分かれて下掲の共通課題と選択課題について検討し、選択課題を1つ選んでもらいます。次回の授業までに、各課題について関連する文献のリストと作業計画をToyoNet-ACEのプロジェクトで報告してもらうので、その進め方と分担を話し合って決めてもらいます。

○共通課題：促音後の破裂音の声の中和

促音のあとに有声破裂音が現れる外来語では有声・無声の区別が失われる（中和される）傾向が見られます。次の2組の最小対立について7～8名ずつ発話データを採取し、この中和現象について音響的な特徴を観察、記述したうえで、さまざまな要因（話し方のスタイル、発話速度、地域差、当該語の出現頻度等）の影響について、発話データを採取、分析し、この中和現象の傾向の強弱との関係を議論しなさい。

○選択課題

- (1) 母音の連続におけるピッチアクセントの音声解釈
- (2) 前後の音の種類と音節子音の長さとの関係
- (3) 発話の最初における母音の無声化

演習、実習、実験において複数回にわたって同一内容の授業を行う場合は、その詳細（毎回の授業でどのような内容のことをどのように行うか）を記述してください。

【第2～5回】 発話データの観察と記述

4回にわたり、各グループで取り組む発話データの採取と観察の進捗を報告してもらいます。発話データの採取はグループごとに課外で行い、SFS（Speech Filing System）でセグメンテーションとアノテーションを行ったうえでToyoNet-ACEのプロジェクトに保存してください。授業では、各グループの進捗を5分程度で報告してもらったうえで、作業を進めるうえで生じた問題、気がついたことなどについて意見を交換します。この作業のなかで、SFSの使い方に習熟し、また、音声の音響的特徴について理解を深めてもらいます。

【第6回】 音素論

この授業では、音声を観察、記述する枠組として、音素の考え方を解説します。（参考文献：Collins & Mees 2013 pp. 69-122）

【第7回】 弁別素性理論

この授業では、音声を観察、記述する枠組として、弁別素性の考え方を解説します。（参考文献：Odden 2013 pp. 61-140）

【第8回】 エレメント理論

この授業では、音声を観察、記述する枠組として、音韻エレメントの考え方を解説します。（参考文献：Bacley 2011 pp. 1-61）

【第9～12回】 グループ調査の報告発表

各グループに調査結果を報告してもらいます。20分の報告のあと10分の質疑応答の時間を設けます。報告内容はあらかじめToyoNet-ACE上で共有できるようにするので、必ず事前に当日の報告内容について確認し、自分のグループの調査結果と比較して、質問や気がついた点をまとめておくようにしてください。

【第13～14回】 各課題テーマに関する考察

第13回は共通課題、第14回は選択課題について、調査結果の講評を交えて解説します。

【第15回】 総括とレポート課題

授業の総括を行ったうえで、期末レポートの課題を提示し、その取り組み方について解説します。

【指導方法】

この授業は講義形式で行いますが、適宜ToyoNet-ACEのresponを使って質疑応答や意見交換の機会を設けます。授業で使用する資料と授業の前後に取り組む課題（詳細は【事前・事後学修】を参照）をToyoNet-ACEで配信します。課題のフィードバック（講評等）はToyoNet-ACEで配信します。

授業計画は導入（第1～2回）、3つのトピック（第3～6回、第7～10回、第11～14回）、まとめ（第15回）で構成され、3人の担当教員がそれぞれひとつのトピックについて授業を行ないます。また、トピックごとに講師を招いて、広い視野から理解を深められるようにします。

【指導方法】 ※入力必須項目（1000字以内）

授業形態（講義・演習・実技等）や指導上の特徴、あらかじめ授業を受けるにあたって準備することなどについて記載してください。

【事前・事後学修】

事前学修では、ToyoNet-ACEで配信されるハンドアウトを確認し、ワークシートに取り組んでおいてください。この取組時間の目安はそれぞれ60分程度（計2時間）です。ワークシートは、授業で取り上げる内容について用語を調べたり、自分の考えをまとめておいたりする内容となっております。事後学修では、授業内容を振り返ってから、ToyoNet-ACEで配信される参考資料を確認し、発展学修に取り組んでください。参考資料は、ディスカッションのトピックと参考書・URLを含んでおり、授業内容の定着を図るとともに関連する知識を広げる内容となっております。この取組時間の目安は、授業内容の振り返りが30分程度、発展学修が90分程度（計2時間）です。

【事前・事後学修】 ※入力必須項目（1000字以内）

単位の実質化を保障するため、目安となる自己学習の方法や内容等について、具体的に記載してください。〔事前〕と〔事後〕それぞれ記載することがポイントです。また、事前・事後学修にかかる時間の目安を示してください。

【成績評価の方法・基準】

各トピックの最後の授業で課すレポート（各 30%）と最終回の授業で課すレポート（10%）に基づいて評点を算出します。成績は、東洋大学の成績評価基準に準拠します。

各学修到達目標（1）～（4）は次のような観点で評価します。

《各トピックのレポートについて》

（17～20 点）

- ・データを的確に観察し、分析的に記述できる。
- ・普遍的な特徴と個別的な様相を明確に対比させて示すことができる。
- ・授業内容を発展させて自らの意見を論理的に述べるができる。

（13～16 点）

- ・データを的確に観察し、正確に記述できる。
- ・普遍的な特徴と個別的な様相をそれぞれ示すことができる。
- ・授業で学んだ考え方に自らの意見を交えて述べるができる。

（7～12 点）

- ・データを概ね的確に観察し、正確に記述できる。
- ・普遍的な特徴と個別的な様相のどちらかを示すことができる。
- ・授業で学んだ考え方を矛盾なくまとめることができる。

（1～6 点）

- ・データを部分的に観察し、正確に記述できる。
- ・普遍的な特徴と個別的な様相を部分的に示すことができる。
- ・授業で学んだ考え方を部分的に述べるができる。

《各トピックのレポートについて》

（7～10 点）

- ・事後学修に基づく適切な例を挙げることができる。
- ・基本的な用語・概念の意味・定義を説明できる。

（1～6 点）

- ・配付資料から適切な例を挙げることができる。
- ・基本的な用語・概念の意味・定義を部分的に説明できる。

《最終回の授業で課すレポートについて》

（10 点） 授業内容を発展させて自らの意見を論理的に述べるができる。

（8～9 点） 授業で学んだ考え方に自らの意見を交えて述べるができる。

（6～7 点） 授業で学んだ考え方を矛盾なくまとめることができる。

（1～5 点） 授業で学んだ考え方を部分的に述べるができる。

【成績評価の方法・基準】

※入力必須項目（600 字以内）

成績評価の方法については、試験・レポート・その他の方法と複数の方法で評価する場合は、その割合について明示してください。また、可能な範囲で、各評価方法についての時期や形式について具体的に記載してください。

成績評価の基準については、「東洋大学の成績評価基準」に則り、評価の観点と水準（何がどの程度までできることを求めているか）を具体的に記載してください。学生自身が明確な目標を持つことができるように学修到達目標に対する達成度の評価基準をルーブリック等の方法により示すことが理想です。なお、授業への参画を加点する場合、出席だけで加点するのではなく、「授業の積極性（発言回数等）」「小テストの結果」などを評価の対象としてください。

【受講要件】

「言語と文化Ⅰ」の単位を修得していることが必須です。

【受講要件】 ※入力必須項目（1000 字以内）

前提となる科目以外に、明らかに受講者を限定する条件は記載しないでください。要件がない場合はその旨を記載してください（「特になし」等）。

【テキスト】

ToyoNet-ACE で配信する資料を使います。事前に入手して授業に持参してください。

【テキスト】 ※入力必須項目（600 字以内）

入手に必要な情報（書名／URL、著者名、出版年、出版社名等）をご入力ください。定価のあるものは価格も記載してください。また、授業中にプリント等を配布する場合はその旨を記載してください。（ISBNコードによる書誌情報検索も可能です）

【参考書】

スティーヴン・ピンカー、『言語を生み出す本能（上・下）』NHK ブックス、1995、1,408 円（税込み）、
 スティーヴン・ピンカー、『思考する言語（上・中・下）』NHK ブックス、1995、1,408 円（税込み）、

【参考書】 ※入力必須項目（600 字以内）

事前・事後学修を促す観点から、授業を受けるにあたって読んでおくべき書籍、主体的に理解を深めるための書籍等について十分な情報を記載してください。（ISBN コードによる書誌情報検索も可能です）

【関連分野・関連科目】（600 字以内）

教育課程における当該科目の位置づけを理解するために役立つ情報を示すことができます。

【関連分野・関連科目】

国際社会とキャリア

【備考】

第 1 回授業で提出する課題です。提出方法は授業時に指示します。

- [1] この授業を履修する（ことを検討している）理由を書いてください。（必修科目の場合はその旨を回答してください。）
- [2] 【講義の目的・内容】を踏まえて、あなたがこの授業に期待する学びについて書いてください。
- [3] 【学修到達目標】を確認したうえで、あなたがこの授業をとおして身につけたい力を書いてください。
- [4] 【講義スケジュール】で、あなたがもっとも関心を抱いた内容を挙げて、その理由を書いてください。
- [5] 【指導方法】について、質問や要望があれば書いてください。質問がなければ「ない」と書いてください。
- [6] 【事前・事後学修】を確認したうえで、授業時間以外に、この授業のために必要な学修時間は何時間ぐらいかを書いてください。
- [7] 【成績評価の方法・基準】を確認し、この授業でよりよい学修成果を得るためにしなければならないと思うことを書いてください。
- [8] 【受講要件】を自分が満たしていることを確認したうえで、「受講要件を満たしている」と書いてください。
- [9] 上記以外のことに関する質問や、担当教員への要望・メッセージを書いてください。

【添付ファイル 1】**【添付ファイル 1】****【添付ファイル 1】****【リンク】****【添付ファイル】（Word、Excel、PowerPoint、PDF 形式）**

資料 3 点まで添付可能です。シラバス登録完了後に添付ファイルの追加・更新がある場合は、教務担当課までご連絡ください。

(2) 英語版シラバスの作成例

Language and Culture II				
Instructor	●● ●●			
Year	20**	時間割	■■■■■■■■■■	授業コード
【Sub-title】 Universality and Diversity of Language, Culture and Communication				
【Course Purpose and Description】 This course focuses on the universality and diversity of language, culture and communication. Through this course students will learn about various aspects of language and its uses. Knowledge about language, culture and communication will help students when interacting with people from a variety of backgrounds in the context of a globalized, international society.				
【Learning Objectives】 The goals of this course are for students to be able to (1) talk about the mechanisms of language and communication. (2) observe and analyze some representations of language universality and diversity. (3) identify some of the universal and context-specific aspects of language and culture. (4) talk about the importance of understanding language and culture in a globalized society.				
【Schedule】 [01. Orientation/Outline of the course] [02. Overview of Language Communication] Only human beings are regarded as being able to use a language. We will compare their ways of communication with those of other living creatures and discuss how they are different, in order to find out the characteristic property of language. [03. Language acquisition and use 1: mother tongue] Languages are very complicated systems and people find it very difficult to learn a language. Yet children can learn to use their mother tongue so quickly. We will discuss some evidence that illustrates children's amazing ability to acquire a language. [04. Language acquisition and use 2: linguistic typology] Thousands of languages exist in the world, but a close scrutiny reveals that their variations are severely limited. We will discuss some of these variations to identify what restrictions exist and to find out possible generalisations between them. [05. Language acquisition and use 3: nature vs. nurture] Provided with the facts we have observed and discussed so far, we will discuss two approaches to language acquisition: one that takes a view that language is an innate faculty, and the other that assumes that language is a skill learned from the environment. [06. Language acquisition and use 4: linguistic knowledge / Assignment (1)] Provided with the discussions so far, we will discuss what knowledge is stored in our mind/brain and how that knowledge gives rise to various linguistic expressions to be used in communication. [07. Universals and variations in speech sounds 1: overviews of accents] Languages assume different sound characteristics, giving out various 'accents', as they come to be used in a wider community. We will look at how sounds differ in English accents around the world. [08. Universals and variations in speech sounds 2: accents of British English] We will examine the characteristics of an accent of British English that is regarded as a standard variation, and then compare it with other accents of English spoken in different places in Britain. [09. Universals and variations in speech sounds 3: historical alterations] Languages change over time. In this lecture we will observe the chronicle alterations in accents of British English, and learn how individual accents have historically come about. [10. Universals and variations in speech sounds 4: accents in society / Assignment (2)] Different accents are derived not only from geographical expansion of languages but also from their sociological penetration. We will look at an example of the latter kind in "Pygmalion", a play that features social connotations of accents of British English. [11. Language and Thoughts 1: types of meanings] The same expression may give rise to different 'meanings'. We will observe examples of such cases in our everyday life and discuss what types of 'meanings' exist in language. [12. Language and thoughts 2: the world expressed by language] If languages differ about whether they have a linguistic expression for a particular phenomenon or not, a question arises as to whether that phenomenon would be understood differently according to individual languages. We will discuss how our thoughts are constrained by languages we use. [13. Language and Thoughts 3: how meanings are arrived at] Provided with the discussions so far, we will discuss what principles lie behind the understanding of the meanings of linguistic				

<p>expressions, and examine how the principles work and meanings are understood with example sentences.</p> <p>[14. Language and thought 4: cross-cultural understanding of meaning]</p> <p>In our growing global society, problems may arise as to the cross-cultural understanding of the meanings of linguistic expressions. In this lecture we will discuss the influence of different cultures when expressions are translated or incorporated into a different language.</p> <p>[15. Final Report and Course Review]</p>
<p>[Instructional Methods]</p> <p>This is an omnibus-type course taught by three instructors. Each instructor will present and discuss a different topic relating to language and culture. Students will be expected to use the ToyoNet-ACE Respon system to engage during lessons by posing questions and exchanging their opinions with other participants. Weekly assignments, which students are expected to complete, will be uploaded to ToyoNet-ACE. Instructors may also invite guest speakers so that students can gain a broader view of language and culture. Feedback on the assignments will be given through ToyoNet-ACE.</p>
<p>[Self-study before/after classes]</p> <p>Before each lesson, students will be expected to work on that week's worksheet or other assignments, as announced on ToyoNet-ACE. Each pre-lesson assignment task is expected to take approximately 60 minutes to complete.</p> <p>Following each lesson, students will need to review lesson content and to further extend observations and/or develop discussions using materials that have been distributed via ToyoNet-ACE. Each post-lesson assignment task is expected to take approximately 120 minutes to complete.</p>
<p>[Methods of Evaluation and Grading Criteria]</p> <p>This course will be evaluated through:</p> <ul style="list-style-type: none"> - three topic reports, weighted 20% each - 90% - a final report – 10%. <p>Evaluation will be based on Toyo University criteria for grading.</p> <p>Learning objectives (1)-(4) will be evaluated according to the criteria below.</p> <p>《Assignments (1)-(3)》 (17-20 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Observes data correctly, and provides an analytic description of it. • Makes contrastive analysis of universal properties and individual features. • Expresses own opinions, developing what has been taught in class. <p>(13-16 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Observes data correctly, and provides an accurate description of it. • Distinguishes universal properties and individual features. • Expresses own opinions, based on what has been taught in class. <p>(7-12 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Observes most data, and provides a reasonable description of it. • Identify either universal properties or individual features. • Provides a relevant summary of what has been taught in class. <p>(1-6 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Observes some data, and provides a reasonable description of it. • Identify some universal properties and/or individual features. • Describe some of what has been taught in class. <p>《Assignments (1)-(3)》 (7-10 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Provides relevant examples based on own studies before/after class. • Explains the meanings/definitions of basic terminologies/concepts. <p>(1-6 points)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Provides relevant examples from handouts. • Explains the meanings/definitions of some basic terminologies/concepts. <p>《Final Report》 (10 points) Expresses own opinions logically, developing what has been taught in class. (8-9 points) Expresses own opinions, based on what has been taught in class. (6-7 points) Provides a relevant summary of what has been taught in class. (1-5 points) Describe some of what has been taught in class.</p>
<p>[Pre-requisites]</p> <p>There are no specific prerequisites for this course.</p>

【Textbooks】

Materials for this course will be distributed via ToyoNet-ACE. Before each lesson, students are expected to print out that lesson's materials and handouts and bring them to class.

【Reference Materials】

Pinker, Steven 2003. The Language Instinct. London: Penguin. 2,000 yen (approx.).

Pinker, Steven 2003. How the Mind Works. London: Penguin. 2,000 yen (approx.).

【Related Study Fields and Courses】

Language and Culture I

【Notes】

This is an introductory assignment to be carried out in Week 1. Submission details will be given in class.

[1] Write the reason you are taking (or are considering taking) this course. (If this course is required, please state this.)

[2] Read the 'Course Purpose and Description' and write what you expect from this course.

[3] Write the abilities you expect to develop through this course, referring to the 'Learning Objectives'.

[4] Read the 'Schedule', write the contents that interest you most, and explain why.

[5] Read the 'Instructional Methods', and write questions, requests, etc. if any; otherwise, write 'none'.

[6] Read the 'Self-study before/after classes', and estimate how many hours of outside classroom study will be necessary for you per week.

[7] Read the 'Methods of Evaluation and Grading Criteria' and write what effort you will need to make to obtain a successful outcome in this course.

[8] If you meet the conditions shown in the 'Pre-requisites', please state this.

[9] Write any other questions, requests or comments that you have.

【File No.1】**【File No.2】****【File No.3】****【URLs】**

[Schedule]

[01. Orientation: Choosing topics and forming groups]

After reviewing the course syllabus in class, students will be divided into groups of 4-5 each to work on a project. Each group will be asked to examine both the required assignment and the optional assignments shown below, choose one from the latter, and discuss a necessary experiment for the assignments. Then, they will be asked to discuss necessary preparations for the experiment, and share the tasks (readings and planning) among the group members. Next, each group will be asked to report the preparations they have made on ToyoNet-ACE. Reports must be posted before Week 2 and will be checked in class. Finally, we will review the schedule from Week 2.

<Required assignment: voicing neutralization of a geminate plosive>

In Japanese, voiced plosives in loan words tend to lose voicing distinction (to be neutralized in voicing) when they are the second member of a germination (e.g., 'g' in 'doggu'). First, collect minimally contrastive speech data of this sort from 7-8 informants, and observe and describe the acoustic characteristics related to the phenomenon in question. Then, collect and analyse further data, and discuss how the degree of neutralization is influenced by factors such as style, speech rate, regional accents, frequency of occurrence, and so on.

<Optional assignments>

- (1) Interpretation of pitch accents in vowels in sequence
- (2) Influence of adjacent sounds on the duration of syllabic consonants
- (3) Devoicing of initial vowels in utterances

[02.-05. Observation and description of speech data]

From Week 2 to Week 4, each group will report on what data they have collected and how they are dealing with them. In preparation, collect relevant data well beforehand, segmentate and annotate them, and save the files in the 'Project' section of ToyoNet-ACE. In class each group will present the progress of their own work for about 5 minutes. We will discuss problems with the work and share suggestions to improve it. Students are expected to learn how to use SFS and to have a better understanding of the acoustics of speech.

[06. Taxonomic Phonemics]

We will look at the concept of phonemes and how they are used to provide descriptions and analyses of speech (Collins & Mees 2013 pp. 69-122).

[07. Distinctive Features]

We will look at the concept of distinctive features and how they are used to provide descriptions and analyses of speech (Odden 2013 pp. 61-140).

[08. Element Theory]

We will look at the concept of phonological elements and how they are used to provide descriptions and analyses of speech (Bacley 2011 pp. 1-61).

[09.-12. Results of experiments]

Each group will be asked to report the results of their experiments (presentation for 20 minutes and Q&A for 10 minutes). The handouts will be available beforehand on ToyoNet-ACE, so students are expected to check them, compare them with their own results, and prepare comments and questions before class.

[13.-14. Reviews and discussions]

We will review and discuss the reported results, focusing on the required assignment in Week 13 and on optional assignments in Week 14.

[15. Final exam and Course Review]

(3) 非対面授業のシラバスの作成例

観光行政・政策論	
担当者	●● ●●
【サブタイトル】 国策としての観光振興	
【講義の目的・内容】 観光立国推進基本法が制定され、観光行政の司令塔としての観光庁が発足して以来、観光振興はわが国の重要な政策課題となりました。これ以降の観光振興は、国家の成長戦略に位置づけられ、インバウンド振興、観光人材の育成、民泊の推進などの施策が実施されてきました。地方自治体においても、地域経済を牽引する役割が観光に期待されています。本講義では、国策としての観光振興を実現するために、どのような政策がどのように企画立案されて実施され、その成果と課題は何かを理解することを目的としています。また、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに即して、観光政策分野で必要とする知見と論理的思考力を理解できるようになることも目的としています。	
【学修到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光立国の意味、それを目指すための施策の全体像を理解する。 ・わが国の観光振興を担う行政組織、業界組織の役割や課題を理解する。 ・カリキュラムポリシーに即して観光政策分野で必要とする知見と論理的思考力を身につける。 	

【講義スケジュール】 できる限り事前・事後学習ができるようにするため、次のスケジュールで進める。 第1回 オリエンテーション（本講義の目的、進め方、政策に関する基礎的な知識の説明） 第2回 国策としての観光立国推進の現状と課題（政策課題、政策の企画立案手法） 第3回 観光政策の基本的枠組み（意思決定プロセス、法制度論・政策論の学習の要点） 第4回 観光立国推進基本法・観光立国推進基本計画のしくみ 第5回 宿泊施設の整備推進政策 第6回 日本のインバウンド推進政策 第7回 航空等の観光交通政策 第8回 各観光行政組織の観光施策、国際観光旅客税 第9回 観光関連法通論（旅行業法、民泊法など） 第10回 海外のインバウンド推進政策 第11回 観光事業の効用と弊害、観光の倫理・哲学 第12回 観光産業の高度化・広域周遊観光の推進・DMO等のエリアマネジメント 第13回 観光行動・動機の実態と休暇政策 第14回 観光政策の変遷 第15回 総括とテスト（第14回までの授業のポイントとToyoNet-ACEでの小テスト）

【指導方法】 講義ごとに資料を配布し、できる限り具体的な事例の紹介やスライド等を用いた客観的なデータ等に基づく説明を行いながら講義を進めます。必要に応じて、授業中にサブノートやレポート作成等の演習課題を課し、実践作業を通じた知識の深化と定着を促進するようにします。また、事後学習などの機会を利用して、他の学生とのディスカッションや参考文献等の紹介による発展的な学習を行う方法を指導します。なお、提出された課題に対しては、採点結果の連絡を含む個別指導等を毎回実施します。 なお、質疑応答等は、ToyoNet-ACEの掲示板やGoogleで行います。
--

〔シラバス記載上の注意事項〕 指導における質疑応答等の機会の確保

オンデマンド型授業（授業教材配信方式による授業）の場合であっても、質疑応答や意見交換の機会の確保、提出された課題に対する毎回の指導（一定のタイムラグがあっても可。指導の一事例としては、採点やコメントなどによる評価結果のフィードバックなどがある）が必要になりますので、その手段や方法を具体的に記入してください。

<授業の形態>

オンデマンド型授業（授業教材配信方式による授業）で実施します。授業資料の配布及び講義は、ToyoNet-ACE・YouTube・Google と、PDF ファイル・Word ファイル・PowerPoint ファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。また、質疑応答は ToyoNet-ACE またはグーグルフォームで行いますが、その際は実名で投稿してください。

【事前・事後学修】

事前学習 配布したレジメを読んでおいてください。

事後学習 授業中に配布したレジメを読み直し、理解と考察を深めてください。

また、事前に自分の考えをまとめ、事後には他の学生の意見や指摘等を咀嚼して、自分の考えを深めてください。必要とする時間の目安は、事前学習が 30 分～90 分間以上、事後学習が 30 分～120 分間以上です。

【成績評価の方法・基準】

<成績評価の方法>

ToyoNet-ACE に記録された視聴状況や回答状況による授業中の態度や意欲の評価 40%、授業内テストやレポートの評価 50%、特別課題評価 10%などで総合的に評価します。なお、授業への出席は、ToyoNet-ACE に記録された視聴状況や回答状況によって判断します。

<成績評価基準>

小テスト及びレポートにより、上記の到達目標に照らした各回の講義の理解・習熟度を評価します。そのうえで、学内成績評価基準に基づき査定します。

【シラバス記載上の注意事項】 成績評価の方法

非対面授業の導入に伴って評価の手段が変わる場合は、その手段を具体的に記入してください。なお、通常の対面式の授業では、3分の2以上の出席を単位認定の前提として求めています。インターネットによる授業へのアクセスやレポート課題の提出などをもって「出席」とみなしてください。

【受講要件】

特に定めない。

【テキスト】

国土交通省観光庁作成・発行の「観光白書（最新版のコンパクト版でないもの）」をテキストとして使用します（観光庁のホームページ上に PDF ファイルがアップロードされていますので、必ずしも購入する必要はありません）。また、補足資料として PDF ファイルでプリントを配布します。

【参考書】

テキストは使用せず、プリントを配布する。

●学生側の受講環境

インターネットによる授業の受講がスムーズにできるように、学生には、パソコン・タブレット・スマートフォンのいずれかの端末が必要であることを連絡しています。この連絡に当たっては、カメラやマイクの付いているものであることや、スマートフォンよりも、パソコンを推奨することも付記しています。なお、授業の実施に当たっては、スマートフォンで聴講する学生がいることにご留意ください。

●聴覚障がい等のある学生への配慮

音声のみによる解説では十分に受講ができない学生がいます。文字（テキスト）による解説についての配慮もよろしくお願いします。

(4) サンプルシラバス

サンプルシラバスとして各学部等から提供いただいたシラバス（一例）です。過年度を含め、その他のシラバスは下記 URL よりご確認ください。

東洋大学シラバス URL : <https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/>

英語 I A A / 英語 I A (GLP)

【サブタイトル】

リスニング&リーディング：英語のしくみについて理解を深め、「英語の直観」の習得を目指す

【講義の目的・内容】

ハイレベルな TOEIC 形式の問題に取り組みながら、英語の仕組みを深く理解するための文法知識と、音声変化、イントネーションの用法、諸地域のアクセントの違いまでに及ぶ発音知識を学び、速く正確な読解力、高いレベルの聴解力をつけることを目的とする。習熟度の高い学生を対象として、豊富な英語のインプットにより、複雑な英語の構造、分量の多い英語の流れを掴めるようにし、英語で授業を受けられるようになるための「聴く」と「読む」の訓練をする。

この授業では、資格英語の問題で正解を導くための知識や技術を習得することにとどまらず、そのような知識や技術を掘り下げて、英語母語話者が持つ「直観」を理解することを重視する。たとえば、文法項目であれば、ウェブ検索を駆使して用例を集め、その項目がどのような表現で使われているかを確認し、そこから浮かび上がる一般化について考察する。発音項目であれば、イントネーションのパターンを観察し発話に現れる話し手の意図にまで踏み込んで考察する。このような授業を通して、TOEIC のスコアの向上とともに、実践的かつ発展的な英語の運用力を身につけることを目指す。

【学修到達目標】

- ・ TOEIC の問題形式を理解し、スコアを伸ばす。
- ・ TOEIC の中上級レベルの語彙を習得する。
- ・ 高度・複雑な文法・構文、英文ビジネス文書の構成を理解し、説明できる。
- ・ 英語の流れをつかみ、長い会話や発話のリスニングでも内容を正確に理解できる。
- ・ 長い英文や複数の英文からでも素早く要点を捉えて必要な情報を探すことができる。

【講義スケジュール】

第 01 回 授業案内／辞書・参考書・ウェブサイトの活用／シラバス課題

※必ず第 1 回授業の前に ToyoNet-ACE の説明を読んで準備しておくこと。また、最初の授業までにテキストと辞書を用意すること。

第 02 回 Unit 1 Listening

第 03 回 Unit 1 Reading

第 04 回 Unit 1 小テスト／Unit 2 Listening

第 05 回 Unit 2 Reading

第 06 回 Unit 2 小テスト／Unit 3 Listening

第 07 回 Unit 3 Reading

第 08 回 Unit 3 小テスト／Unit 4 Listening

第 09 回 Unit 4 Reading

第 10 回 Unit 4 小テスト／Unit 5 Listening

第 11 回 Unit 5 Reading

第 12 回 Unit 5 小テスト／Unit 6 Listening／TOEIC 問題練習 1 Listening

第 13 回 Unit 6 Reading／TOEIC 問題練習 1 Reading

第 14 回 春学期学修の総括／学期末試験

第 15 回 フィードバック／展望

【指導方法】

TOEIC の問題形式に対応したテキストを使用し、問題に取り組みながら、語彙や表現、文法項目、文章の組み立て、発音についての理解を確認し、聴解力と読解力を伸ばす。教科書に付属の音声資料やウェブ上でアクセスできる音声教材を活用してリスニングを訓練する。

授業では、あらかじめ指定した問題に取り組んできていることを前提として、まず、グループにわかれて解答および問題の解法を確認・検討してもらい、次に、教員が解法のポイントを解説する。また、各 unit の解説が終わったあとに小テストを行い、学習内容の定着を図る。

この授業では、学習支援システム ToyoNet-ACE を活用する。「小テスト」機能を使った事前・事後学修（後述）だけでなく、諸連絡もこのシステムで配信するので、毎回の授業の前にこの授業のコースにアクセスして、トップページや「コースニュース」に更新された情報がないかを確認すること。また、小テストおよび試験のフィードバックは ToyoNet-ACE の「成績」を通じて個別に配信する。補足、質問は授業、ToyoNet-ACE の「掲示板」で行う。

<p>【事前・事後学修】 毎回の授業の翌日に、ToyoNet-ACE の掲示板で、授業概要、補足、次回の授業に向けた準備について確認すること。 事前学習では、まず、ToyoNet-ACE を利用して、指定された課題に辞書や参考書を使わずに取り組み、次に、辞書や参考書を適宜参照しながら解けなかった問題に取り組み、重要なことがらや質問内容をまとめること。 事後学習では、授業で学んだ内容について理解を深め応用力が身につくように、文法分野の内容については解答を導き出す過程を整理して考え方を理解し、同じパターンの問題を解く力がつくように繰り返し解き直しておくこと。（理解が曖昧なところに気づいたら、次の授業で必ず質問すること。）また、発音・リスニング分野の内容については、授業で説明された発音のポイントを整理して知識を定着させるように努めるとともに、教材を繰り返し聞き返し自ら発音して慣れるようにすること。さらに、前述の掲示板の指示に従い、次回の授業に向けた準備を行うこと。 ことばを使いこなすことができるようになるには、直観的な言語知識・技術を身につけることが必要であり、そのためにはたとえ1回の学習時間は短くても学習頻度を上げることが有効である。したがって、事前・事後学習には、少なくとも、毎日50分以上、1週間5時間以上の時間をかけること。</p>
<p>【成績評価の方法・基準】 授業への取組（20%）、小テストの成績と課題（30%）、期末課題（50%）について評点を算出し、東洋大学の成績評価の基準にしたがって成績評価を行う。 「授業への取組」では、受講姿勢と事前・事後学習における積極性が評価の対象となる。 「小テスト」では、授業内容の理解と事前・事後学習の成果を確認する。「課題」は、必要に応じて設定するものであり、その内容と評価基準は適宜提示する。 「期末課題」では、教科書の問題を使って学習内容の定着度を測り、教科書以外の問題を使って学習した解法の応用力を試す。</p>
<p>【受講要件】 プレイズメントテストで所定の基準を満たし GLP（法学部グローバルリーダー育成プログラム）への登録を認められていること。</p>
<p>【テキスト】 ・【主教材】松本恵美子 / 井上健人 / Graciella Bautista 著 『800点を目指す TOEIC® L&R TEST 演習 [HIGH LEVEL STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST]』 三修社 2023.3 (2,420 円) (税込) (ISBN:978-4-384-33521-7) ・【辞書】英和辞典（中辞典サイズのものであれば出版社は問わない） 4,000-5,000 円 ・【副教材】TEX 加藤著 『TOEIC L&R test 出る単特急金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017.1 (961 円) (税込) (ISBN: 9784023315686) ・【副教材】神崎正哉, TEX 加藤, Daniel Warriner 著 『1 駅 1 題 TOEIC L&R test 読解特急 : 新形式対応』 朝日新聞出版 2017.5 (968 円) (税込) (ISBN: 978-4023316034) ・【副教材】加藤優著 『TOEIC L&R TEST 900 点特急パート 5&6: 新形式対応』 朝日新聞出版 2017.9 (924 円) (税込) (ISBN: 978-4023316225)</p>
<p>【参考書】 ・英和辞典（授業に持参するのは1冊でよいが、自習用に複数の英和辞典を用意することが望ましい。） 4,000~5,000 円 ・英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary または Longman Dictionary of Contemporary English を推奨） 5,000~6,000 円 ・文法参考書（以下の例のようなもの） ・Raymond Murphy 『English Grammar in Use 5th edition』 Cambridge University Press 2019.01 (3,500-4,000 円) (ISBN: 978-1108586627) ・平賀正子 監修、鈴木希明 編著 『総合英語 be 4th Edition』 いいずな書店 2022.02 (1,870 円) (税別) (ISBN: 978-4864607209)</p>
<p>【関連分野・関連科目】 英語 IB、Integrated Academic Skills I</p>
<p>【備考】</p>
<p>【添付ファイル 1】 【添付ファイル 2】 【添付ファイル 3】 【リンク】</p>

English IAA / English IA (GLP)

<p>【Sub-title】 Listening and Reading: Deepening your Understanding of English and Acquiring English Intuition</p>
<p>【Course Purpose and Description】 The purpose of this course is to develop students' reading and listening skills through answering questions of the style found in the TOEIC test. While working on the high-level TOEIC exercises, students will acquire grammatical and pronunciation knowledge so that they can understand English more deeply. Students will also learn to read and listen to a higher level of English more</p>

quickly and accurately. The further aim of this course is to help students to be able to understand university lectures in English. This course focuses, not only on the skills and techniques needed for TOEIC exams, but also helping students to gain an intuitive understanding of English - like a native speaker. This understanding will lead students to have greater practical and developmental English language skills.

【Learning Objectives】

The goals of this course are for students to be able to

- understand a variety of different types of TOEIC questions and improve their test scores.
- learn intermediate vocabulary used in the TOEIC test.
- understand higher-level grammar and language structures and be able to explain them.
- grasp the overall flow and content of English listening texts accurately through repeated practice.
- learn and understand the structure of English business documents.
- grasp the main points of longer and more complex English passages.

【Schedule】

[WEEK 01] Course introduction
[WEEK 02] Unit 1: Listening
[WEEK 03] Unit 1: Reading
[WEEK 04] Unit 1: Quiz / Unit 2: Listening
[WEEK 05] Unit 2: Reading
[WEEK 06] Unit 2: Quiz / Unit 3: Listening
[WEEK 07] Unit 3: Reading
[WEEK 08] Unit 3: Quiz / Unit 4: Listening
[WEEK 09] Unit 4: Reading
[WEEK 10] Unit 4: Quiz / Unit 5: Listening
[WEEK 11] Unit 5: Reading
[WEEK 12] Unit 5: Quiz / Unit 6: Listening / TOEIC practice test (Listening)
[WEEK 13] Unit 6: Reading / TOEIC practice test (Reading)
[WEEK 14] Final exam / Review
[WEEK 15] Feedback / Further study

【Instructional Methods】

Students will improve their English-language proficiency through learning how to answer various types of TOEIC test questions using the course textbooks, as well as confirm their understanding of grammatical points, vocabulary and expressions. In addition, students will be able to improve their English listening skills through the use of audio teaching materials. In class, students, divided in groups, will be asked to compare their answers from preparation, to discuss the reasoning that led to those answers, and to select one answer for each question. Then the instructor will comment on those answers and explain what knowledge and/or viewpoints are intended to be examined by individual questions. A quiz will be provided after each unit to consolidate what have been learnt.

The use of ToyoNet-ACE is vital throughout this course. In addition to exercise materials for self-study before/after classes, various information will be provided on this system. Students are advised to check the top page and the "Course News" before every class. The results of the quizzes and final exam will be delivered to individuals on the "Grades" page of ToyoNet-ACE. Supplements and chances of Q&As will be provided on the "Forum" page of ToyoNet-ACE.

【Self-study before/after classes】

On the next day of each class, check the ToyoNet-ACE bulletin board for class outlines, supplements, and preparations for the next class.

In pre-learning, first, using ToyoNet-ACE, tackle the problem of the specified text without using a dictionary or reference book within a predetermined time limit, and then use a textbook to search the dictionary or reference book. Work on problems that could not be solved while referring to them appropriately, and summarize important matters and questions.

In post-study, be sure to understand the way of thinking about the process of deriving answers so that students can acquire applied skills (the ability to solve problems with the same pattern). (If you find that your understanding is ambiguous, be sure to ask questions in the next class.) Also, listen to the listening materials repeatedly. In addition, follow the instructions on the bulletin board described above to prepare for the next class.

In order to be able to master the language, it is necessary to acquire intuitive language knowledge and skills, and for that purpose, it is effective to increase the learning frequency even if the learning time is short. Therefore, at least 20 minutes daily and 2 hours a week are required for pre- and post-learning.

【Methods of Evaluation and Grading Criteria】

Scores are calculated for class activities (20%), quizzes and assignments (30%), TOEIC IP score (10%), and final exam (40%). The grade is evaluated according to the Toyo University grading criteria.

<p>In "class activities", the attitude of attendance and the aggressiveness in pre- and post-learning are subject to evaluation. In the "quizzes", students will understand the content of the lesson and confirm the results of pre- and post-learning. The "assignments" will be provided if necessary, and the contents and evaluation criteria are presented as appropriate. In the "Final exam", the level of learning content is measured with textbook questions, and the applied ability of the learned solution is tested with problems other than textbooks.</p>
<p>【Pre-requisites】 Enrollment in this course is limited to students who are concurrently enrolled in the Global Leadership Program.</p>
<p>【Textbooks】 - Kato, TEX 『TOEIC L&R test Kin-no-phrases』 Asahi Shinbun Publications. 2017.1. (ISBN: 9784023315686) - Kanzaki, Masaya et al. 『TOEIC L&R test Dokkai-tokkyuu』 Asahi Shinbun Publications. 2017.5. (ISBN: 978-4023316034) - Kato, Hasaru 『TOEIC L&R test 900ten-tokkyuu-part5&6』 Asahi Shinbun Publications 2017.9. (ISBN: 978-4023316225)</p> <p>Students are required to bring an English-Japanese or English-English dictionary to every lesson.</p>
<p>【Reference Materials】 - An English-English dictionary such as - Oxford Advanced Learner's Dictionary - Longman Dictionary of Contemporary English, etc (for those who use an English-Japanese dictionary in class)</p> <p>- A grammar reference book such as - Raymond Murphy 『English Grammar in Use 5th edition Book with answers and interactive ebook』 Cambridge University Press. 2019.01. (ISBN: 978-1108586627) - Suzuki, Noriaki 『be』 izuna-shoten. 2022.02. (ISBN: 978-4864607209)</p>
<p>【Related Study Fields and Courses】 English IB, Integrated Academic Skills I</p>
<p>【Notes】</p>
<p>【File No.1】 【File No.2】 【File No.3】 【URLs】</p>